

## 地理空間情報の更なる活用促進を目指した地理院地図の最近の取組

地理空間情報部情報普及課長 佐藤 壮紀

キーワード：古地図コレクション、災害への備え、ベクトルタイル、地図の利用手続

### 1. はじめに

国土地理院は、平成 15 年に公開を始めた「地理院地図」（当時の名称は「電子国土 Web システム」）を通して、平時から基本図、空中写真、標高、土地の脆弱性を表した地図などを発信するとともに、災害発生時には、緊急的に撮影した被災地の空中写真や被災状況の判読図などを公開している。本報告では、地理院地図を中心に、これら国土地理院が提供する地理空間情報の活用促進の取組を紹介する。

### 2. 地理空間情報の活用促進のための取組

#### 2.1 古地図（地理資料）等の公開

国土地理院では、その前身である陸地測量部や地理調査所が作成した地図（測量成果）についても公開している。また、それ以前の伊能図等の古地図についても地理資料として「古地図コレクション」のサイトから公開している。

「古地図コレクション」では、これまでに国土地理院が収集した江戸後期からの古地図について、縮尺や年代等を基準に分類し、地図の諸元や解説を附して公開しており、今般「明治期の地図」として、第一軍管地方二万分一迅速測図原図や五千分一東京図測量原図を新たに公開した。

これらは過去の地形・地貌、土地の利用状況が分かる資料として、住民の防災意識の向上や地理・防災教育に有用である。

#### 2.2 役に立つ地理院地図へ

地理院地図は国土地理院が整備する多くの地理空間情報を一元的に提供しているが、近年は特に住民の災害への備えや、国、地方公共団体の災害後の初動や二次災害防止のための活動に有用な情報や機能を重視して提供している。

例えば、土地の潜在的な災害リスクが分かる「明治期の低湿地」や「土地条件図」、近年開発したサイトの利用者が標高に応じて任意に地図を色付けできる色別標高図は、その土地の特性を知るために有用である。また、災害発生直後に国土地理院が撮影する被災地の写真と災害前の写真を並べたり重ねたりして比較する機能は、被災範囲の把握や、被害を受けた施設の把握、土砂災害発生箇所や流木の堆積箇所の把握等に有用である。

さらに、地理院地図には「他機関の情報」として国土地理院以外の機関が整備した地理空間情報も掲載している。例えば、今年地理院地図に掲載を開始した産業技術総合研究所の「地質図」は土砂災害の

危険性の把握に有用である。このような防災・減災行政に役立つ情報は、今後も積極的に掲載していく予定である。

また、地理院地図の地図データをベクトルタイル形式で提供すべく、現在提供実験を進めている。これにより、地図の利用者がブラウザ上で目的に応じた地図表現ができるようになるなど、地図の活用が一層広がるものと期待している。今年度中の正式提供を目指している。

#### 2.3 地図の利用手続

地理院地図などから提供している地理空間情報の二次利用を促進するためには、利用のための手続の明確化と簡素化が必要である。平成 29 年 3 月に測量行政懇談会に設置した「地図の利用手続のあり方検討部会（部会長：井上由里子 一橋大学教授）」では、近年の行政が保有する情報のオープンデータ化に関する取組の動向も踏まえ、地理空間情報の二次利用のための手続の改善に向け検討を進めた。その結果、平成 30 年 12 月に、二次利用のための手続を「IoT の時代にふさわしい運用にすべき」「簡素化すべき」を軸とした考えのもと、「手続が必要な対象を測量分野やその他の国土管理に関わる行政分野で利用されるものに限定すべき」「地理院タイルをコピーしてそのまま利用することも承認すべき」といった具体的な提言がなされた。現在国土地理院では、提言を踏まえて手続の運用の見直しを行っているところである。

### 3. 今後の取組

地理院地図は、住民一人一人の防災意識の向上や行政事務で役立つ機能を搭載しており、その普及は極めて重要であると考えている。平成 31 年 1 月～2 月に行った「国土交通行政インターネットモニターアンケート」では、地理院地図を実際に使っただき、その感想を集計したところ、約 3 割の方が「地理院地図を以前より知っており興味を持っている」と答えたほか、約 5 割の方が「地理院地図は知らなかったが興味を持った」と回答した。これは、より地理院地図を利用しやすいものにすれば、より多くの方に活用いただける可能性が高いことを示している。アンケート結果を踏まえ、今後は搭載している情報や機能を利用者の目的別に整理するなど、利用者からよりアプローチしやすいものにしていくことが重要であると考えている。